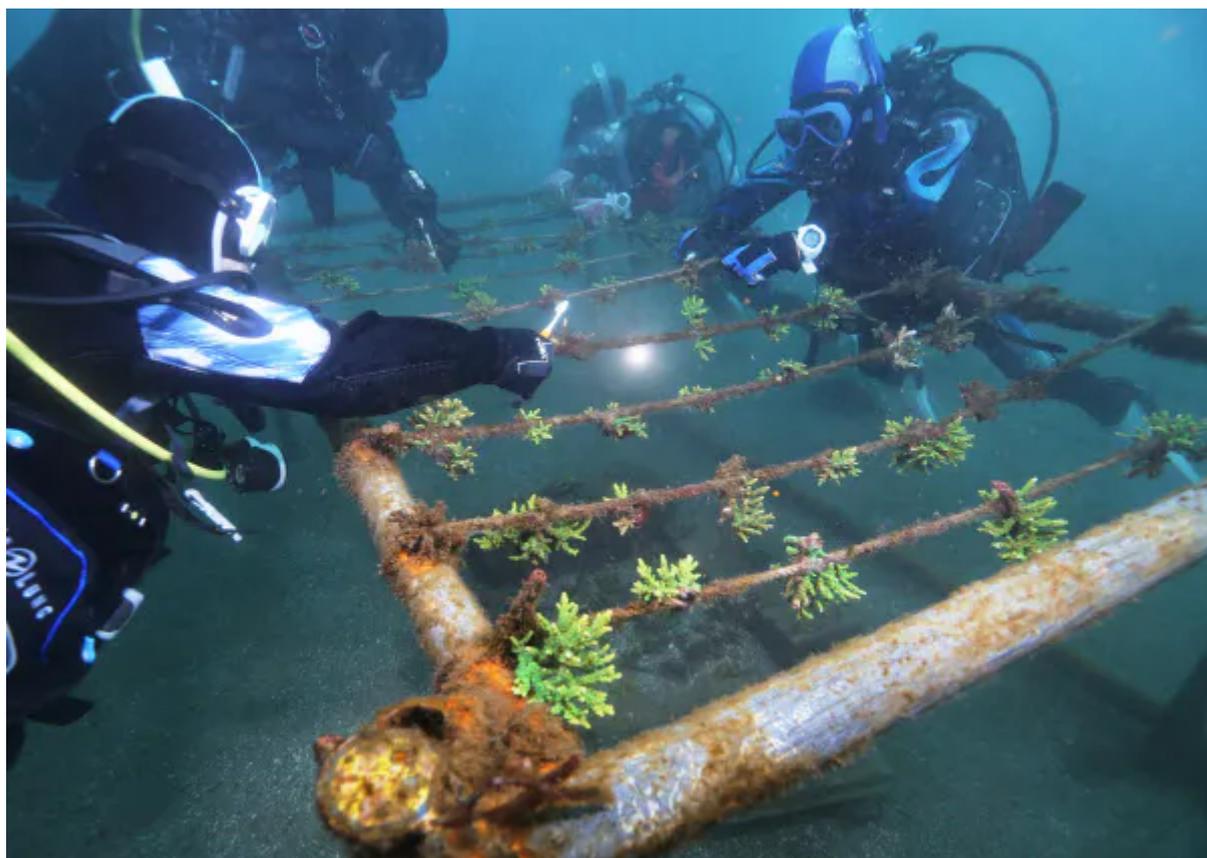


伊豆の海でサンゴ再生 植樹体験のダイビングツアー

2020/1/25 2:00 | 日本経済新聞 電子版



サンゴを手入れするツアーの参加者（静岡県沼津市）

静岡県の駿河湾に消えかけていたサンゴ礁の姿が戻りつつある。東京都三鷹市のダイビングショップ「ザダイブファクトリー」のインストラクター木村幸成さん(30)は、富士山に一番近いダイビングスポットとして知られる獅子浜でサンゴの子どもを育てている。また、サンゴの植え付けや手入れを体験できる「伊豆にサンゴ礁を！」というダイビングツアーを開催、サンゴ礁の再生や海の美化を呼びかけている。



「伊豆にサンゴ礁を！」ツアーを開催している木村幸成さん

木村さんは18歳の時に伊豆大島の海に潜って海の美しさに心を奪われた。サンゴが消えていく状況を見て、「海を守りたい」との思いで2015年にサークルを結成した。当時、駿河湾のサンゴは消滅の危機にあった。獅子浜の地元ダイビングショップに話をもちかけたことがきっかけで、サンゴ植樹の研究者からも協力を得られるなど、賛同の輪が広がった。3年間の準備期間を経て、2018年3月には海中に棚を設置するなど本格的な活動を始めるところまでこぎ着けた。



2019年4月に新しく設置されたサンゴ棚（静岡県沼津市）

昨年12月、ダイビング歴1年の記者もツアーに参加してみた。記者を含めて4人の参加者が集まり、増田佳菜さん（22）は「初めて参加した時は植樹編で、サンゴのその後の成長を見たいと思って今日のメンテナンス編に参加してみた」と2回目の参加だった。



落ちたサンゴを拾う参加者の増田佳菜さん

海に潜る前に施設内で木村さんのレクチャーを受けた。サンゴの基本的なことを中心に、サンゴ棚を傷付けないよう潜るための注意点を教わった。初心者ダイバーにありがちなのは、足ひれでサンゴを傷付けてしまうことだという。私もダイビングを始めたばかりの頃は、目の前の景色に夢中になって気付かぬ間に生き物や植物を傷付けていたかもしれないと思った。



2018年秋に発生した大型台風の影響で落石被害にあったサンゴ棚

いよいよ水中に潜り最初に向かったのは、2018年3月の活動がスタートして最初に設置されたサンゴ棚だった。人間の力では動かさそうにない岩が乗っていて、真横に大きく傾いていた。2018年の秋に直撃した大型台風による落石被害だという。自然災害が思わぬところまで影響を及ぼしていることを実感した。岩の下敷きにならなかつたロープ部分には、枝状のサンゴが根をしっかりと絡ませながらけなげに生きていた。「ヒメエダミドリイシ」と呼ばれるサンゴの一種だ。



ロープの上で育つサンゴ「ヒメエダミドリイシ」

サンゴの周りを泳ぎまわる魚たちの姿に見とれていると、木村さんから「落ちたサンゴを拾って、折らないように運ぶ」ミッションが課された。地面をはうようにして探し始めるが、折れたサンゴはどれも5センチ未満と小さく、砂地の海底に埋もれているため探し出すのに苦労した。植物だと思っていたサンゴは、実はクラゲやイソギンチャクの仲間であって動物の一種だと初めて知った。皆で拾い集めたサンゴは次回の植樹に活用する。



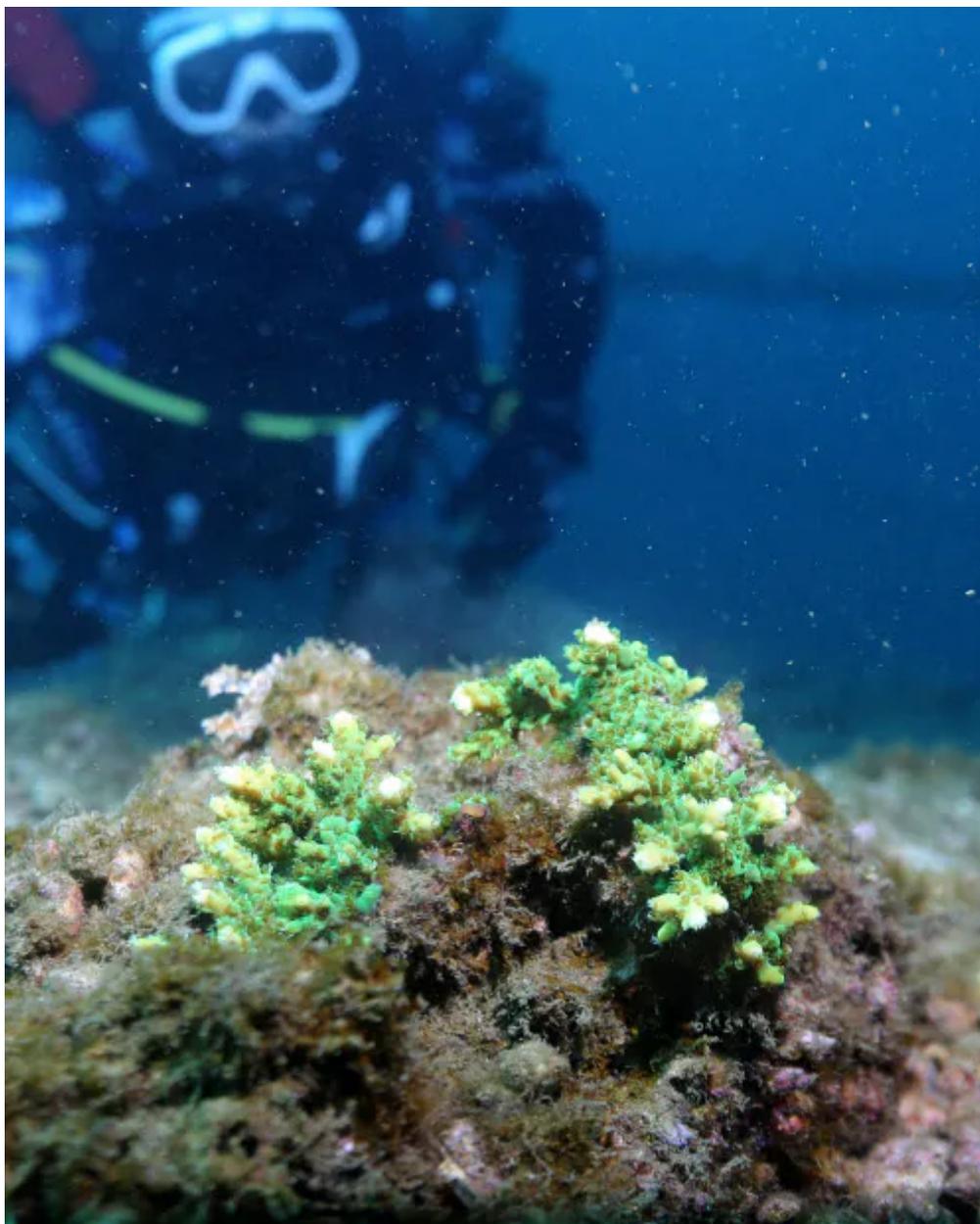
落ちていたサンゴは次回の植樹に活用する

2019年4月に設置された棚のロープには、約50個のサンゴが絡まるようにして浮いていた。光合成するサンゴは太陽の光に向かって枝を伸ばしていく。木村さんから歯ブラシを1本ずつ配られ、サンゴや棚の汚れを落とす作業を体験する。一斉にサンゴの掃除に取り掛かり、瞬く間にサンゴに付着していた茶色いコケや泥がはがれ、目の前の視界が濁り始めた。掃除をしていると鉄パイプ内部に小さな生き物がいることに気付いた。人工のサンゴ礁であっても、すみかや産卵場所として活用する生物がいる。小さな生態系が育まれようとしているのを見て、サンゴが無事に大きくなることを願う気持ちが強まった。



サンゴやロープに付着した泥やコケは、歯ブラシを使って除去する

こうして各自が黙々と作業を続けること約30分。「そろそろ作業を引きあげよう」と書いた水中ノートを片手に掲げる木村さん。マスクの下には笑顔が見えていた。ふと海底を見てみると、誰の手も借りずに小さいながらもたくましく育っているサンゴがいた。精いっぱい世話をしてもうまくいかないことも多いが、自然界の生命力は不思議なものだと感じた。



岩の上で自然に成長するサンゴ

毎日のように海に潜り続けて10年の木村さん。サンゴを守りたいという思いで始めた「伊豆にサンゴ礁を！」ツアー。楽しみながらサンゴの魅力を知り、海の環境を大切にしようと思うダイバーの輪が少しずつ広がっている。「いつか伊豆の海がサンゴ礁で埋まる日を夢見て」木村さんの活動は続く。（森山有紗）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.